

令和5年3月

保護者，地域の皆様

仙台市立錦ヶ丘小学校

校長 菅原 弘一

## 令和4年度 協働型学校評価の自己評価と学校関係者評価委員会の評価について

日頃から，保護者の皆様，地域の皆様に深い御理解と温かい御支援を賜り，厚く感謝申し上げます。学校評価につきまして，アンケートに御協力いただきましてありがとうございました。過日，開かれまして学校運営協議会において，アンケート結果や学校運営について報告しました。その評価につきまして，下記の通りお知らせします。

尚，保護者の皆様の自己評価の過程で頂戴しました御意見等につきましても，参考資料として掲載しました。教職員一同真摯に受け止め，新年度の計画立案や学校運営に活かしてまいります。

### 記

#### 1 今年度の協働型学校評価の重点目標

学校教育目標

たくましく しなやかに生きる 子ども

協働型重点目標

学校・家庭において，たつぷりと時間を確保し，読書に親しむ

～ 読書を介した「対話」＝温かいコミュニケーションの推進 ～

#### 学校における取組

- ・児童への学校図書館の積極的な活用の働きかけ
- ・学校図書館の図書の実と整備
- ・多読賞の表彰
- ・学校図書館土曜開放事業
- ・朝読書時間等の設定
- ・家庭での読書活動を促す（家読の日の設定）

#### 家庭における取組

- ・家庭での読書時間の確保
- ・親子での読書活動の推進
- ・市立図書館等の利用
- ・読書関連の各種応募に参加

#### 地域における取組

- ・読み聞かせボランティアの活動
- ・仙台市図書館等で企画している活動との連携（ブックトークなど）
- ・学校支援地域本部の学校支援

## 2 「協働型重点目標」に対する学校の自己評価結果

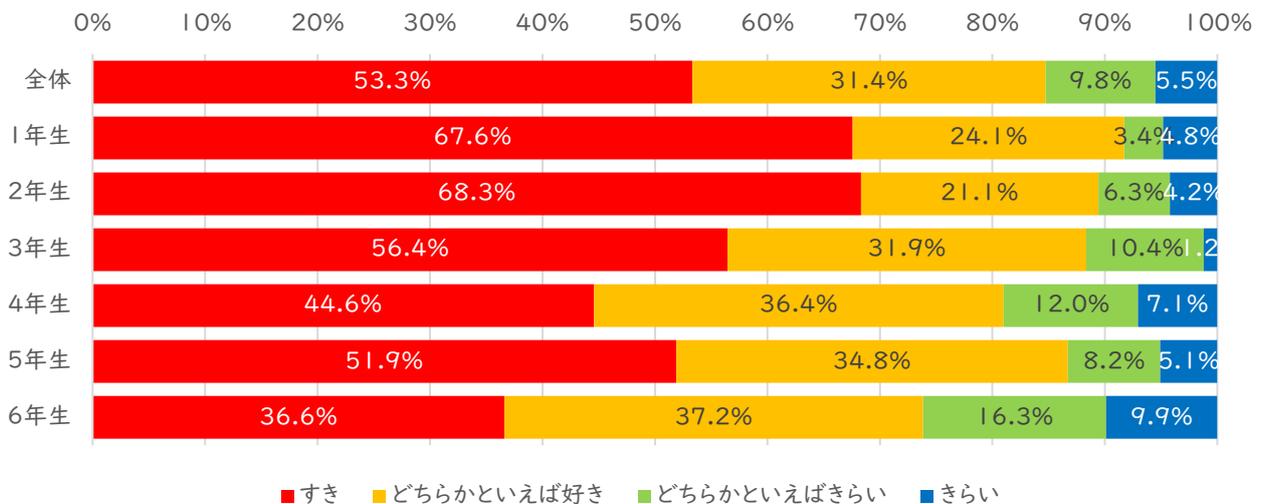
**協働型重点目標** 学校・家庭において、たつぷりと時間を確保し、読書に親しむ  
 ～ 読書を介した「対話」＝温かいコミュニケーションの推進 ～

読書量を増やすことのみを目標とするのではなく、読書を介して友達や家族・地域の方、あるいは本に描かれている人物等との対話を促していくことで、「温かいコミュニケーションの力」の育成につなげられるよう取り組んで参りました。

アンケート結果からは、子供たちが読書に親しんでいる様子がわかります。「対話」との関連については、コロナ禍により取組が十分にできなかったこともありますが、さらに工夫を検討していきます。

### 【児童自己評価 回答964件】

○本を読むのは好きですか。



回答した児童の80%以上(817名)が、本を読むのが「好き」「どちらかといえば好き」と回答しています。逆に「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と回答した児童は147名でした。

③本が好きということと、②1週間に読書をする日数には、関連性のようなものが見られます。また、あまり読書習慣が身につけていないと思われる6年生ですが、7割以上の児童が、読書に対して肯定的な意見を持っていることがわかりました。

否定的に捉えている児童の一番の理由は「字を読むのが苦手・面倒くさい」というものでした。

「(テレビなど)ほかのことが楽しい」と合わせて考えると、YouTube等の動画配信サービスの影響も大きいのではないかと考えられます。読書と動画視聴とは、脳の使われ方が違うと言われていいます。集中して読書をする時、言語能力に関わる部分、記憶に関わる部分が広い範囲の領域が活発に働くことがわかっていて、一方、動画視聴が習慣化してしまうと、情報のインプットが多過ぎて「脳疲労」の状態に陥り、脳の情報処理機能が低下してしまうのだそうです。

脳には①浅く考える機能②深く考える機能③ぼんやりと考える機能があります。スマホなどで動画視聴は①ばかり使って脳が疲れてうっかりミスが増えたり、②③の機能が衰えてしまうことで感情コントロール力が低下したりするようです。

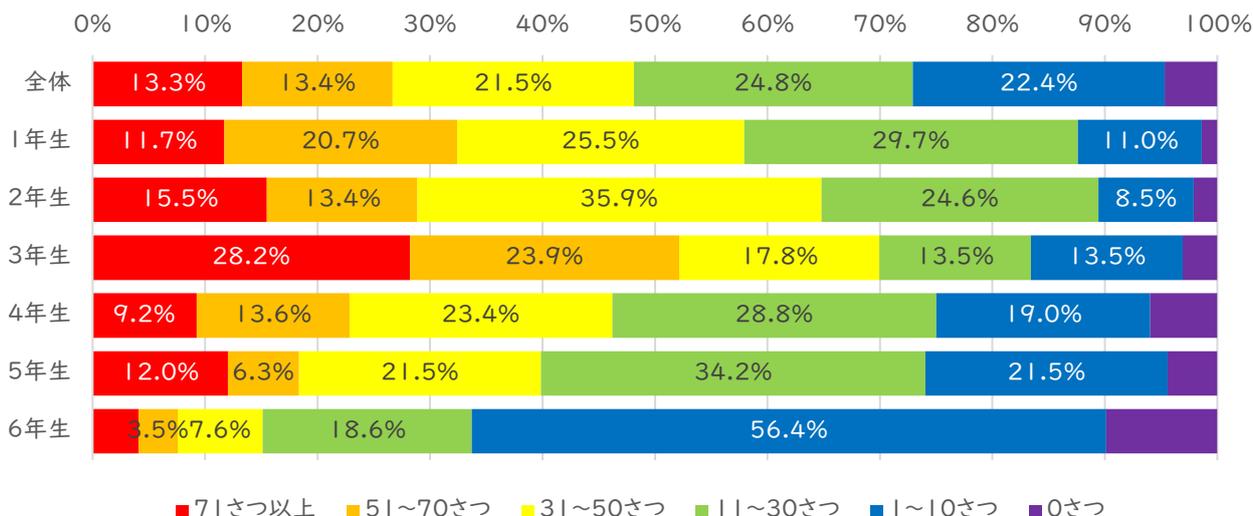
Chromebookが学習に必要な文房具となった今、メディアと上手につきあっていくことが大切です。その1つが「しっかりアウトプットする」ということです。きちんと目的をもって情報を集めたり、整理したりして、アウトプットするというのが脳にとって大事です。このことは本校が研究している情報活用能力の育成とも、深く関わりのあることです。ルールを守り、しっかりと目的をもって、能動的、主体的にメディアと関わることによって、読書と同じ効果が生まれます。

生活や学習習慣を見直していく中で、読書に対する意識やメディアとのつきあい方がより良いものになるように働きかけていきたいと考えています。

(参考：大正製薬webサイト)

お役立ちコラム『脳疲労に要注意！「スマホ脳疲労」は集中力や記憶力にも悪影響！』)

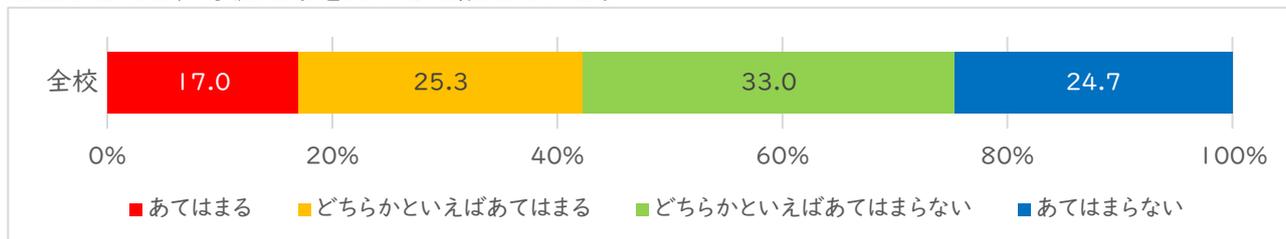
○今の学年になってから図書館の本を何さつ借りましたか。



5冊以上借りている児童は26.7%で、令和2年度の24%、令和3年度の22%を上回りました。特に3年生では半数以上の児童が51冊以上という結果になり、読書に親しんで、図書室を利用している様子が見られました。その一方で、6年生の6割以上が10冊以下という結果も目立ちました。高学年になると、長編の本をじっくりと読むことを好むようになるので、冊数が増えないというのも要因もありますが、読書習慣が身につけていない児童が多いという実態も見えてきました。

文部科学省では、低学年を初歩読書期、中高学年を多読期と分類しています。中学年以降は友達同士の関わりが増える時期なので、成長するにつれて徐々に減少する傾向が見られますが、多読期にこそ、本に触れる機会を増やすことができるような環境の整備などが必要だと考えています。

○お子さんは、家庭で本をたくさん読んでいます。



お子さんが、家庭で本をたくさん読んでいますと回答している保護者の方は半数弱です。

家庭での過ごし方は様々だと思います。習い事の有無やメディアの利用状況、体を動かして活動することの好き嫌いなどで、読書に割り当てる時間に差が出てくるものと思われます。

協働型学校評価の重点目標では、読書量を増やすことのみではなく、読書を介して友達や家族・地域の方との対話を促していくことで、「温かいコミュニケーション」の育成につなげることを目指しています。家庭で読み聞かせ等を行い、本を介してコミュニケーションを図っている記述が多くあり、実践が広がっていることも感じました。さらに工夫を検討していきたいと思っています。

### 3 「学校教育目標」実現のための保護者、教職員の取組について

**学校教育目標** たくましく・しなやかに生きる 子ども

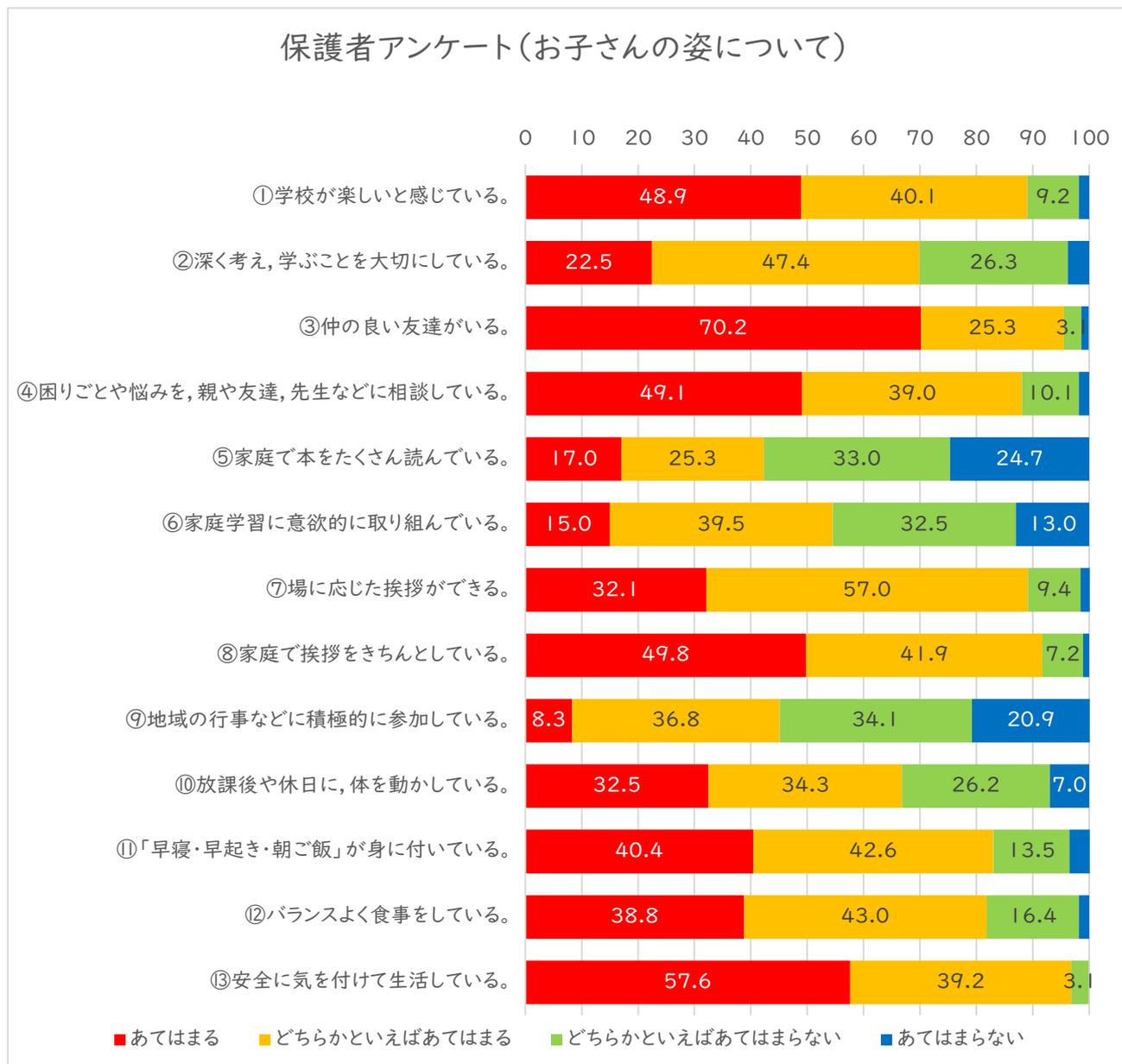
今年度も、新型コロナウイルス感染症対策により、例年のような教育活動を実施できませんでしたが、錦体力フェスタや錦学びフェスタ、情報端末を利用した友達との意見交換やコミュニケーション力の育成に力を入れてきました。

保護者アンケートでは、お子さんが学校に行くことを「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と感じていると回答している方が約9割となりました。全てのお子さんが「楽しい」と感じることができるよう、創意工夫をしていきたいと思えます。

読書について、協働型学校評価の重点目標として取り組んでいます。数値目標を示して努力や成果が視覚的に分かるようにすることだけではなく、いじめに向かわない心の育成という観点からも、読書を介した温かいコミュニケーションを大切に考えていきたいと思えます。

今後も、保護者の皆様、地域の皆様方と協力しながら、児童が読書を通して温かいコミュニケーションを築けるよう指導してまいりたいと考えています。

令和4年度 学校評価アンケート集計結果（保護者評価 回答446件） (%)



#### 4 学校の自己評価結果を踏まえた学校運営協議会委員の御意見

学校の自己評価に対して、令和5年2月27日（月）に行われた学校運営協議会において、委員の皆様から御意見をいただきました。以下に、主なものを御紹介いたします。

##### ① 読書について

- ・ 子供たちが読書でなく、テレビや動画を楽しんでいるのは分かった。動画などの中にも、学習に関わるようなものもあるので、実際にどのぐらいの時間見ているのか、どのような動画を見ているのか、具体的な実態調査をしてみると良いのではないかと。
- ・ これからは「探究」がキーワードとなってくる。その探究の中には、デジタルの情報だけではなく、これまで通りの読書というものも組み込まれてくるので、引き続き、子供たちには読書の機会を増やして欲しい。

##### ② 子供たちの学び方について

- ・ 学校では「自律的に学ぶ子」になってほしいという願いで、教員がどの子にも一律に一定量の課題を出す「宿題」ではなく、子供たち自身が自分の興味があることや自分に必要なことを計画的に自己調整しながら学ぶ「家庭学習」の定着を図ってきた。しかし、保護者の方の中には「(教員が)宿題を出してほしい」という思いを持っている方もいる。
- ・ 子供たちには、言われてやる勉強ではなく、自ら学ぶ「家庭学習」の面白さや楽しさが浸透して欲しい。
- ・ 子供たちが Chromebook を持ち帰って、家庭学習をしている様子を見て、保護者は「すごいね」「大変だね」で終わっていないだろうか。先日の探究プレゼン大会でも、子供たちは大人顔負けの素晴らしいプレゼンテーションを行った。錦ヶ丘小学校は、市内でも先進的に取り組んでいる学校<sup>1</sup>ということも保護者たちに広まるとよい。
- ・ 保護者が子供たちの学び方が大きく変わってきていることについて、自分事としてとらえていくことが大切。学校運営協議会（トモスク）では、保護者と子供が一緒になって Chromebook を体験する「GIGA スクール勉強会」を開催し、とても好評だった。

<sup>1</sup> 仙台市 GIGA スクール推進校（R3 年度～）、日本教育工学協会学校情報化認定優良校（R4 年度～）

## 5 令和5年度 錦ヶ丘小学校 教育活動改善（案）について

委員の皆様から御意見をいただきましたこと等も踏まえ、「令和5年度に向けての教育活動改善（案）」をお示しします。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしながらも、教育活動を広げてまいります。保護者の皆様，地域の皆様の御理解と御協力を賜りますよう，どうぞよろしくお願いいたします。

### 〈 改善の目的 〉

- 新型コロナウイルス感染症が5類になることを踏まえ，学校教育活動をより充実させるため。
- 教員が子供と向き合う時間を確保し，教育の質の向上を図るため。
- 学習指導要領で定められた教科等の内容等を確実に指導できるようにするため。

### 〈 改善の具体について 〉

#### ○ 学校・保護者・地域との連携の強化

- ・ 錦ヶ丘小中学校は学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールです。子供たちの学びを支えていくため，学校と保護者，地域との連携をこれまで以上に大切にしていきます。
- ・ 学校運営協議会（トモスク）を中心に，PTA，学校支援地域本部（めですこスクール）等との連携を深めながら，「自分づくり教育の充実」「防災教育の充実」「情報教育の充実」の3本の柱で教育活動の充実を図っていきます。

#### ○ 温かいコミュニケーションを大切に

- ・ 来年度も温かいコミュニケーションを大切にしながら，仙台市全体で課題となっている，いじめや不登校などに対応していきます。
- ・ 一人一人の良さや多様性を認め合い，自分と違う考えとの出会いを楽しみ，仲間や命を大切にする教育の充実を図り，笑顔があふれる学校生活になるようにしていきます。
- ・ 「にしきさわやかタイム」を新設し，月に1回程度，子供たちが安心して，落ち着いた学校生活を送ることができるようにするための，テレビ放送を行います。生徒指導担当，道徳担当，養護教諭などの多くの教員がそれぞれの立場から，「さわやか」に過ごすことができるように呼びかけていきます。

#### ○ 「体力フェスタ」「学びフェスタ」の充実について

- ・ 新型コロナウイルス感染症が5類になるということを前提に，私たち教職員もできることは実施したいという思いで検討していますが，感染症への対策については様々なお気持ちがあり，特に4月，5月については学校として慎重な対応をしていきたいと考えています。このため「体力フェスタ」については，今のところ，異学年の交流を大切にするために，各学年で実施していたものを低・中・高学年の2学年ごとに拡大して実施する予定です。すでに年間行事予定表でお知らせの通り，平日の授業日に行います。
- ・ 「学びフェスタ」についても，今のところ，教科等で子供たちが学んだ成果を発表し，互いの努力を認め合ったり，自他の良さを見付け合ったりする機会として，11月～12月初旬頃，学年ごとに発表の日時を設定します。具体の開催日時，開催方法については，新年度に入ってからお知らせします。なお，「学びフェスタ」と関連させながら，来年度も学校運営協議会（トモスク）主催の「探

究プレゼン大会」の開催を予定しています。

#### ○ 学校行事（修学旅行・野外活動）の現段階の見通し

- ・ 修学旅行については、旅行業者、受け入れ先予定の会津若松市、宿泊ホテル等の協力のもと、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで、6月実施に向けて準備を進めています。尚、今後の状況により、変更もあり得ることを御承知おきください。
- ・ 野外活動については、今年度も「オーエンス泉岳自然ふれあい館」において9月（1泊2日）に実施の予定ですが、今後の状況により、変更もあり得ることを御承知おきください。

#### ○ 学校からの情報配信や情報交換の機会の充実を図ります

- ・ 授業参観等、お子さんの様子を見ていただく機会は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、徐々に制限を緩和していきたいと考えています。これまで、2学年ごとの日程で3日に分け、さらに4時間目と5時間目に分かれていた授業参観は、3学年ごとの日程で2日に分けて実施します。詳細は、日程が近くなりましたら、お知らせいたします。また、懇談会につきましては、積極的に開催する予定で計画を進めています。多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今のところ令和5年度もPTA総会を体育館に一堂に会する形で行うことはまだ難しいと考えており、上記懇談会の際にビデオによる挨拶や説明を行うほか、ウェブページやフォーム等を活用しながら、「承認」をいただく方向で考えています。
- ・ 全家庭を対象とした個別面談は夏休み期間中に、希望者を対象にした希望者面談は12月に実施しますが、面談については、これまで通り、いつでも対応します。心配なことがある場合や直接学校の考えを尋ねてみたいという場合には、いつでも御連絡ください。また、週に1回程度、スクール・カウンセラーも来校しますので、ご利用の際には、ご予約ください。

#### ○ 教員の働き方改革について

- ・ 教員の働き方改革が喫緊の課題となっており、管理校医や学校運営協議会（トモスク）からも改善を図るべきとのご意見を頂いております。本校教員の勤務時間は、8：25～16：55であることを御理解頂き、引き続き18：00～7：30迄の電話メッセージ対応に御理解と御協力をお願いします。
- ・ SKYMENUによる出欠席等の連絡についても、必ず朝のうちに送信をお願いします。欠席や早退、遅刻の理由やお迎え時刻などが未入力だと、担任が教室を離れて電話連絡を差し上げることとなります。コメント欄への入力もお忘れなくお願いします。

#### ○ クラウド環境の効果的な活用について

- ・ 本校では引き続き、子供たちのChromebookの活用を積極的に進めていきます。
- ・ Chromebookを活用することで、子供たちの学びの場は教室だけにとどまらず、家庭にも広がります。授業で学んだことを家庭学習で整理・分析したり、家庭学習で調べたことを生かして教室で友達と議論したりと、大きく様変わりしています。子供たち自身が情報活用能力を発揮し、学びに向かう気持ちを高め、自律的な学習態度を形成していくことができるように指導の工夫をしています。

- ・ Chromebook を活用する際のルールやマナーについては、学校でも指導しますが、これまで同様、御家庭での見守りもお願いします。
- ・ 保護者の皆様との連絡ツールとしての SKYMENU の活用などを積極的に行っていきます。学校だよりや学年だよりについては、これまでの紙での配付ではなく、オンライン配信をメインにするなどしていきます。

## ○ 家庭での学習について

- ・ 「学校から〈宿題〉を出してほしい」「〈宿題〉を出されても取り組む時間がない」など「宿題」に関して様々な声があります。子供たちにとって大切なのは、一律に一定量先生から課された宿題をこなすことよりも、自律的に学ぶ力であると考えています。もちろん、小学校低学年から自律的に学ぶことができると考えているわけではありませんし、子供に任せきりで自律的に学ぶ力が身に付くと考えているわけではありません。学校としては、授業での学びを充実させることを第一に考え、そのために、家庭でも予習的に取り組むことが必要なもの、復習して定着を図ってほしいことについては、内容や方法を明確にしながら、〈課題〉として取り組むことを促していきます。
- ・ 特に、下学年の子供たちに、突然自分で考えなさいというようなことはせず、教師から課題を与えたり、例示をしたり、内容を自分で選択したりして取り組むことができるよう工夫して指導します。
- ・ 何よりも、学校での日々の授業が、「もっと調べたい」「もっと考えてみたい」という子供たちの気持ちを引き出せるものとなるよう工夫を重ねていくことに力を尽くしていきたいと思えます。
- ・ また、段階的に自律的な学びへと向かうことができるように、学び方や学習計画の立て方についての指導を丁寧に行い、御家庭とも共有できるように努めます。
- ・ 子供たちが頑張っ取り組んだ内容については、適宜励ましの言葉等を添えるなど、取組が持続するような工夫についても考えていきます。

## <参考資料>

保護者の皆様から（読書を介した「対話」の推進について、工夫した働き掛け等）

### 【読書に関すること】

- ・ 毎日寝る前に本を1～2冊読み、内容から様々な話をしています。（複数回答あり）
- ・ 読書の本選びで悩んでいたが、一緒に本を読んであげると少し興味を持ってみたいだった。
- ・ 小さい頃から寝る前に本や絵本を読み聞かせることが習慣になっており、時折感想を聞いたり、読んでる途中に発するさまざまな声（えー！とかすごい！とか）にどう感じているのかを知ることができて、対話に繋がっていると感じます。
- ・ 図書館に行き一緒に本を選ぶ。（複数回答あり）
- ・ 市民図書館や本屋で探したい本など本人が自ら問い合わせするよう働きかけている。
- ・ 図書館に本を借りに行き、テーマに沿って自分で選び、自身で借りるようにしている。
- ・ 子どもの好きな本だけでなく、長く親しまれている本などを図書館で借り、手に取りやすくした。読書後は家族で感想を言い合った。
- ・ 読みたい本があれば図書館で借りて来たり、どうしても読みたい本があれば購入したりしている。
- ・ メディアばかりでなく読書もして欲しいと思い、なるべく新鮮な本を用意するように、図書館を利用したりして、心がけています。
- ・ また、本を借りたり買う際に一緒に選ぶことで、子供の興味に寄り添えるようにしてきた。
- ・ 読書が嫌いになかなか本を読もうとしないので、家読の日は貴重です。
- ・ 母が小学校のときに読んでいた本を渡して感想などをいいあっている。また、子供が読んでいた本を母も読んで見ている。
- ・ 家に興味のありそうな本を置いておくと読んでいた。
- ・ 本を読めるような環境作り。子供が読みたいと思った本を準備してあげる。声に出して読んでいるのをちゃんと聞いてあげる。
- ・ 本を読んだ感想や知ったことを聴くようにしました。（複数回答あり）
- ・ 学年が上がり、いろんなジャンルの小説も読めるようになってきたので、それらの本に出てくる登場人物や出来事についておしゃべりできるのが嬉しいです。親子の対話のきっかけになっています。
- ・ 声かけをしてお読書になりますが、気になる内容、本人にとって面白いと感じる内容だと、感想等どんどん話してきますので、凄くいい傾向だなと感じます。
- ・ 読んで貰うのではなく、自分で読むことも出来るようになってきて、楽しいと思った内容を簡単に説明してくれる（まだ要約は難しいようですが）ようになった。
- ・ 月並みですが、一緒に読んだり、親の子どもの頃のエピソードを交えて本を勧めたり、といったところですが、でも、自分で選ぶと絵本に偏りがちで、文字の多い本は苦手意識があり、それも読み聞かせ的に親と一緒に付き合わないとなかなか進みません。気長に取り組んでみようと思います。
- ・ 学校の宿題で本の感想文を記入するものがありました。それがキッカケで、本を読んだ時など自然と「～こうだった。」など話し合う機会が多くなったと思います。
- ・ 家読の日のおかげで、同じ本を読み感想を話し合う様になり、そのせいか、映画を家族で観に行く事が増え、かつ感想や内容について話し合う機会が増えました。
- ・ 同じ本を読むことも良いですが、それぞれ読んでいる違う本について、お互いにお勧めすることがあります。それもまた楽しいです。
- ・ 読書に集中するために赤ペンでマーキングしながら読むようにしました

- ・ 面白そうな本をみつけたら、紹介するようにしている。
- ・ 子どもがオススメの本を、親に読んでくれたりもしている
- ・ 本は好みの違いがあるとなかなかみんな読んでというのが難しいけれど、漫画なら家族全員が取りかかりやすく、コミュニケーションが盛り上がり、相手の思考や好み個性が掴みやすいと感じています。今の状況に応じて、それぞれに感想が違ってくるのも、今、そんな成長過程にいるんだなと感じたり出来る気がしますし、我が家では漫画を読むその先に、活字の世界が広がっていくと考えているので、それぞれの家庭にあった物が創造性を広げてコミュニケーションを育んでくれると思っています。
- ・ 親子で同じマンガを読んだりしますが、中身については特に話し合うこともありません。せいぜい、主人公の台詞で印象に残っていたり、欲しいシリーズがあるんだよね。という感じです。
- ・ 家庭で読書の時間がなかなか取れなかった。
- ・ テレビばかりを見てしまうので、もっと本を読んでもらうための興味づけを工夫していきたい。
- ・ 子供と読書をするにあたり本を買うまたは借りる等し、家読の日に向け読んでいますが、高学年になるにつれそれなりの内容、厚さの本を好んだりするので親子で読み終えるのにも相当時間がかかりこの課題は非常に負担です。これが子ども複数になると更に大変です。家読をし感想を提出すると言うのは、低学年から中学年までが精一杯に感じます。うまく感想が書けなかったり、読み終えられなかったり子どもはイライラ、親も子どもの読み終わり待ちで結局期間内に読み終えられず話しの内容が分からず、短い読みやすい本以外は提出する事に精一杯で内容についてお互いゆっくり話し合ったりするという状況ではありませんでした。
- ・ 時間に余裕がある家庭はいいですが現状では大変です。取り組みとしてはとてもいいと思いますので、せめて月1ではなく3ヶ月に一度のペースにさせていただくか、例えば新聞記事（こども新聞、市政だよりなど）について一緒に読んで話し合う、学校だよりにある校長先生からの文章部分を読んで話し合う等、読書にこだわらず家庭や子供の発達や興味、取り組み易い内容に合わせて柔軟に対応できる課題だといいなと思います。また一生懸命読んで感想を書いても先生方の方で読んでくれているのか分からず、また他のみんながどういう風に書いているのかも分からず、ただ提出させるだけの課題でしたら読書嫌いな子は毎回同じような内容を書いて提出するだけになってしまうので、感想に対する先生からの何らかの反応がないと子供のやる気が起これないように感じています。先生方が大変なのは分かります。しかし家庭もこちらの課題にはとても苦戦している状況をご理解いただきたく書かせていただきました。

### 【コミュニケーションに関すること】

- ・ 子供が話をしているときは、会話を後回しにせずできるだけ手を止めて目を見て話を聞くように努めた。（複数回答あり）
- ・ 子どもの興味関心に添いながら、できるだけ会話をするように心掛けました。（複数回答あり）
- ・ 相手の気持ちを考えてみよう、ということをとくさん会話に入れて話をしました。（複数回答あり）
- ・ 無理強いしたりせずに、子供の話を落ち着いて聞けるように努力している。（複数回答あり）
- ・ 一日の楽しかったことを話題にする。今日の出来事を話してるときは、否定せずに話を受け止めることにしています。（複数回答あり）
- ・ 食事を家族で摂ったり、風呂に一緒に入り、そこで1日の出来事を話したり聞いたりし、お互いの思いや意見を出せるようにしている。また、感染に気をつけながらも、親戚や地域の方々と積極的

に触れ合わせることをしてきた。子供が帰宅した時、今日一日の出来事についてお互い話をするようにしている。学校であったことを毎日聞いている。

- ・ 今日のニコニコと題してうれしかったことを聞くようにしています。最近子どもから親の今日のニコニコを聞いてくれるようになりました。毎日時間がなく、申し訳ないと思っていますが、その中でもコミュニケーションが取れるように努力しています。
- ・ 食事中や入浴剤など、精神的にリラックス出来る環境で子供の話を聞くこと。副交感神経が優位になった状態の方が、ポジティブな話でもネガティブな話もしやすいと考えています。
- ・ 学校であったことを、娘と競うように話してくれています。他の人の行動を見て「ダメだよ」や、学校からの注意喚起を伝えるとそれについて自分で考えているようです。
- ・ 普段は私(母)と関わる事が多いので、家読は父親が担当することになりました。本についての感想を話したりしながら会話を弾ませていたので、子供にとっても親にとっても楽しいひとときになっています。
- ・ 個々のカレンダーを子どもと一緒に作成し、子どもの毎日の生活の流れ・次への目標・自分で注意しようと思ってる場所などを子どもたちに考え記入してもらい、貼っています。子どものためにと考えてしたことでしたが、思いや考えを書き出す際に普段の生活では話さないことを話してくれるので、私たち親にとってもプラスでした。子どもとしても、口うるさいのは自分の目標に向けて親が声がけしてくれていると思ったとのことでした。手間ではありますが得るものが大きいので続けようと思っています。
- ・ いつでも色々な事柄について、一方的にではなく、お互いどう思うか、意見交換を心がけていた。ニュース、学校行事、読書においても同様。
- ・ 対話とは話をたくさんするという意味だけでなく、我が家では抱きしめたり、あなたを大切に思っているよということを伝えるようにして心への栄養を与えるようにしています。(複数回答あり)
- ・ 生活が運動中心になっていますが、できていないことを中心に言ってしまう。できるだけ、褒めたいとは思いますが、中々難しいです。
- ・ 親もなんでも子供に話すことで、子どもも話やすい環境を作っています。そして、話を聞くときは、必ず共感するように心掛けています。
- ・ お友達とのコミュニケーションが苦手で、積極的に他の子との関わりを取りたがらなかったの、なるべくお友達の様子を聞いてみたりしました。また、普段から、家族で過ごす時間を増やしたりたくさん会話をしたりするようにしました。(複数回答あり)
- ・ 友達の相談があった際には、どのような言葉掛けが望ましいかを話す機会にしている。
- ・ 相手が嫌な気持ちにならない言葉遣いを日々の生活の中で、話し合っています。友達関係で悩んだときにも、どのように伝えたら相手に伝わるか一緒に考えてました。
- ・ 頑張った時や良い事をした時はストレートに褒め、よくない時はそれを伝える。
- ・ 思いやりのある声掛けが出来たときは褒めて、そういう声かけが心温まるということを意識させる。きつい物言いをしたときは、自分が言われたらどう感じるか話をする。
- ・ 読書ではなく、絵を描いたり何かを一緒に行ったりする中で、会話のやりとりができるよう心がけました。
- ・ ギャグを言い笑う。
- ・ 親が手本となる
- ・ 小さな変化でも気付いて話すこと。

- ・ ご飯はテレビを消して、家族で食べる。
- ・ 相手の気持ちを考えて発言する。
- ・ このアンケートを通して、「あてはまらない」へのチェックが多いことに驚きました。3年生までは、自主的かつ意欲的に学習や読書、挨拶ができていました。しかし、4年生中盤あたりから笑顔が減り、意欲低下も見られます。対話に関しては、今のところ色々な事を自分から話してくるので、親としては少し安心ですが、多感な時期に入り始めた子どもに対し、親としてはあれこれ言わず見守る事が大切なのかな、と思います。工夫した働き掛けかはわかりませんが、私は日々、口出し我慢を心掛けています。また、挨拶だけは自然にできる子になって欲しいと思っているので、こちら側から声を掛けることをやめずによくと思っています。
- ・ 言葉にするのは難しく、「こうすれば良い！」という明快な方法があるわけでもなく、ただただ子どもの前に座って顔を見て話を聞いています。帰宅後の報告を楽しそうにしていればこちらも楽しかったんだねと話を聞き、こんな嫌なことがあったんだよと悲しそうに辛そうに話せば抱きしめて、悪いことをしたのを誤魔化してるところがあればじっと目を見つめてみたり、何か頑張ったんだよと言われれば私たちの方が嬉しかったり、毎日ああしてみようこうしてみようの繰り返しです。結果的にどれが良くてどれがまずかったのかわかりませんが、今のところ家庭を安心して過ごせる場所と思ってくれるのでとりあえずはこれで良いのかなと思っています。そうも言ってもらえない場面も何度かありましたが、これからも子どもを正面から見続ける努力をし続けようと思います。
- ・ 自然体験(本物体験)や異年齢の子供や大人達と積極的に関わることで身に付くと考えています。特に小学生までに多くの自然体験(本物体験)や多くの遊びを経験することの大切さを伝え実行しています。何事も先回りして安全を確保せず自分で傷つき、痛い、怖い、辛い、楽しい、さまざまな遊びを通して学び体験する事を大切にしています。
- ・ 家族カウンセリングを受けたり、心理検査をしたりして、お互いの考えていることや、良いところをきちんと理解して認め合えるようにした。
- ・ 言語化することが苦手な子なので、生活の中のいろいろな場面で、自分の意見や考え、気持ち、その理由について、会話を重ねながら一緒に言葉にしていく(言葉を探していく)過程を大切にしよう気をつけていました。